



平成22年11月16日

会社名 株式会社テクノマセマティカル
(コード3787:マザーズ)

住 所 東京都品川区北品川四丁目7番35号

代表者 代表取締役社長 田 中 正 文

問合先 担当者 経営企画部 中 山

電話番号 03-5798-3636

<マザーズ> 投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○ 開催状況

開催日時 平成22年11月16日 15:00～16:00

開催方法 対面による実開催

開催場所 東京証券会館

東京都中央区日本橋茅場町1-5-8

説明会資料名 株式会社テクノマセマティカル 平成23年3月期<第11期> 第2四半期決算説明会

【添付資料】

1. 投資説明会において使用した資料

株式会社テクノマセマティカル

平成23年3月期 < 第11期 > 第2四半期決算説明会



平成22年11月16日

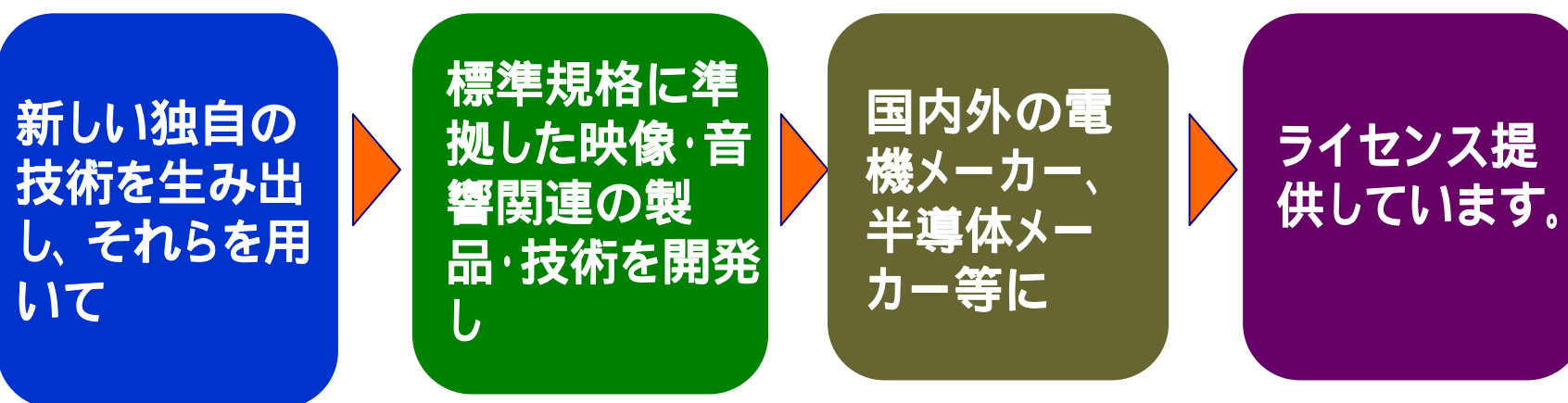
Agenda

1. 事業概要
2. 第2四半期決算の概要
3. 主要な売上指標の推移
4. 通期業績見通し
5. Next 2011中期事業計画について

本説明会および説明会資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づいて、当社が判断したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績等は、さまざまな要因の変化等により、これらの見通しと異なることがありますことをご了承ください。

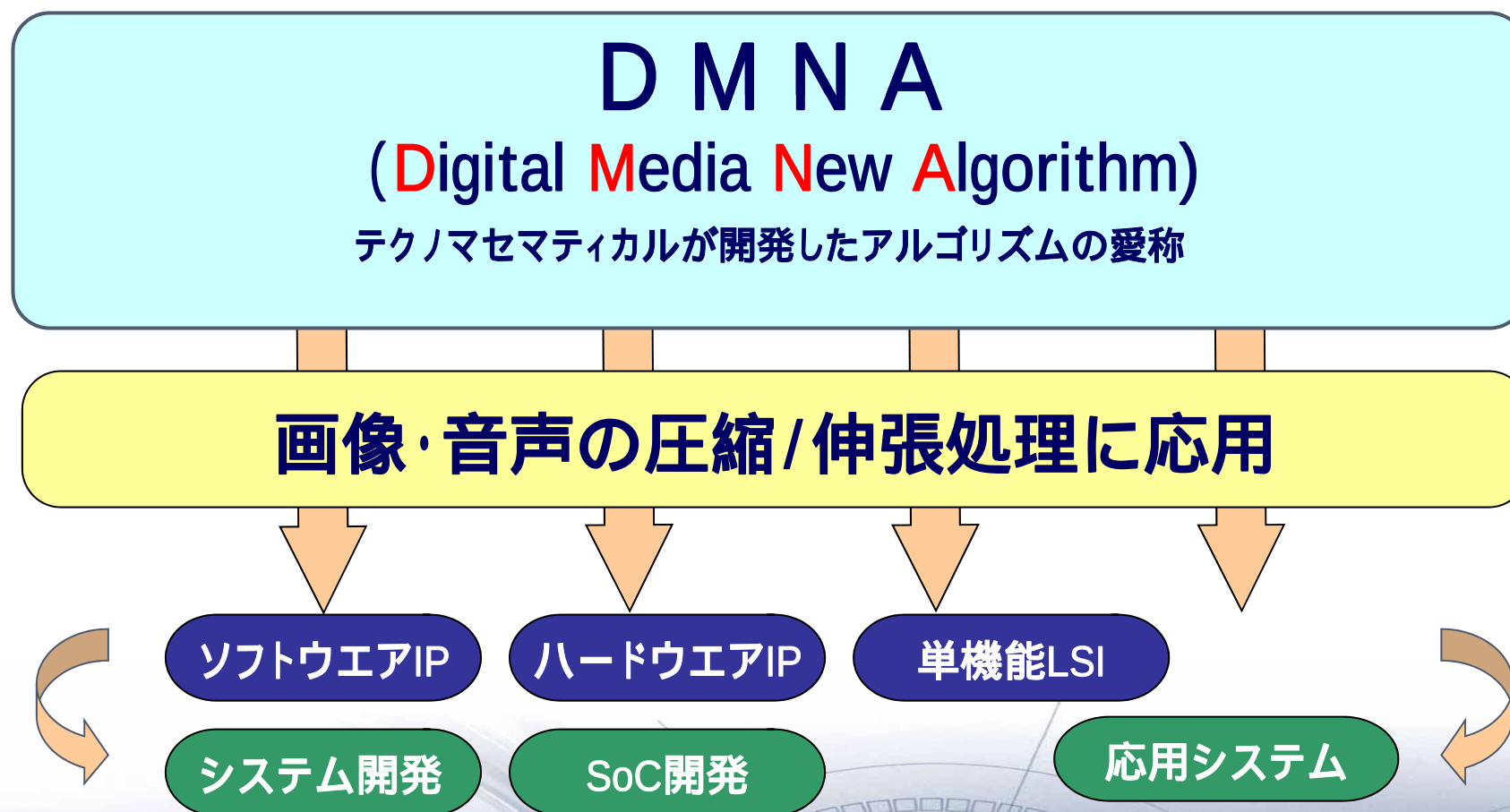
1-1 当社の基幹業務について



高圧縮率、 高画質、 低消費電力量、 低遅延
を実現するデータ圧縮・伸張技術を開発、提供し続けます。

1-2 当社の基幹業務について

2000年6月設立当初から“アルゴリズム開発”をビジネスの基幹と位置付け



1-3 当社事業の特徴

1. 独自技術により差別化された製品

「DMNA」を核とした独自アルゴリズム



2. 利益逡増型の収益構造

ライセンス/ロイヤルティ・モデルを主体とした収益力

3. 全世界に展開可能

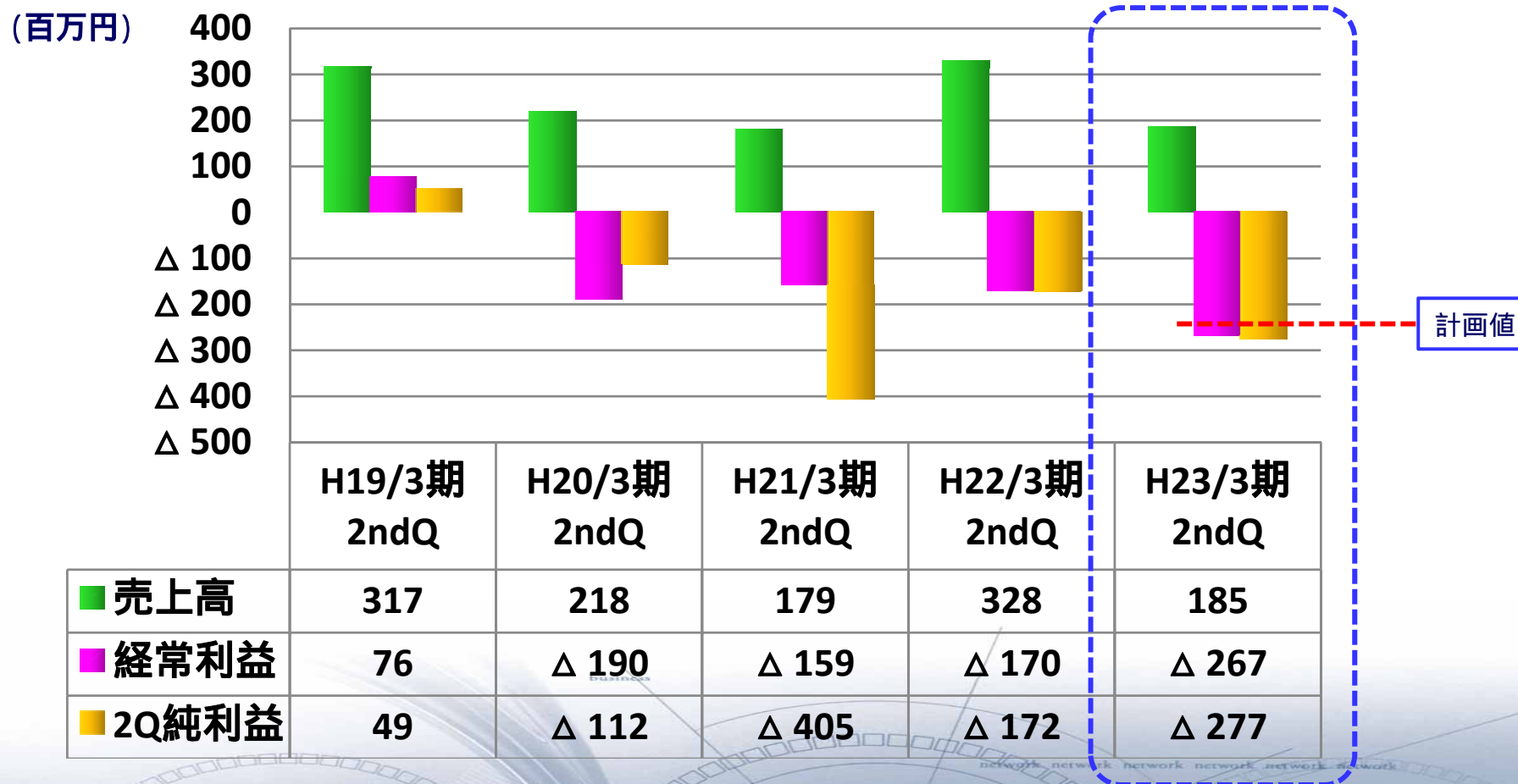
国際標準規格準拠、日本発の映像 / 音響製品

4. 業容拡大による収益力の向上

既存の技術を利用した各種応用システム分野への展開

2-1 業績の推移

- ◆ 売上高 前年同期間比 43.6%減少、利益面も計画を4千万円強ショート
- ◆ 上期に大型のHW案件が獲得できなかったことが売上減の主因
- ◆ 売上高の伸び悩みにより諸経費増加をカバーできず



2-2 損益計算書 (平成22年4月1日～平成22年9月30日)

(単位：百万円)

	当第2四半期（累計） （H23/3期2ndQ）	構成比	対前年同期間 増減比	前年同期間 （H22/3期2ndQ）
売上高	185	100.0%	43.6%	328
売上総利益	137	74.2%	44.1%	245
販売管理費	408	220.4%	2.9%	420
営業利益	271	146.2%	-	174
経常利益	267	144.2%	-	170
四半期純利益	277	149.6%	-	172

2-3 貸借対照表 (平成22年9月30日)

(単位:百万円)

	H22/9末	構成比	対前期末比 増減	H22/3末
流動資産	3,005	95.1%	▲ 262	3,267
固定資産	153	4.9%	▲ 15	168
資産合計	3,158	100.0%	▲ 277	3,436
流動負債	83	2.7%	▲ 7	91
固定負債	7	0.2%	7	-
純資産	3,067	97.1%	▲ 277	3,345

2-4 キャッシュ・フロー計算書推移

3ヶ月超定期預金満期
による増加

(単位:百万円)

	H22/3期 第2四半期(累計)	H23/3期 第2四半期(累計)	対前年 同期間比増減	平成22年3月期
営業活動による キャッシュ・フロー	281	273	7	286
投資活動による キャッシュ・フロー	3,018	691	3,710	2,723
財務活動による キャッシュ・フロー	—	—	—	20
現金及び現金同等 物の増減額	3,299	418	3,718	2,989
現金及び現金同等 物の期首残高	3,350	361	2,989	3,350
現金及び現金同等 物の四半期末残高	50	779	728	361

3ヶ月超定期預金への
振り替えによる減少

(ご参考:BS上の現預金残高

3,151

2,880

271

3,161

2-5 当初業績予想との差異について

(単位:百万円)	期初予想	実績	差異金額	達成率
売上高	235	185	50	78.9%
経常利益	224	267	43	-
四半期純利益	226	277	51	-

プラス面

- ◆ワンセグ向けにSWパッケージ（メディアエンジン他）の採用進む
- ◆ゲーム機向けにAAC-LC/MP3を試作ライセンス、下期に量産ライセンス契約見込む

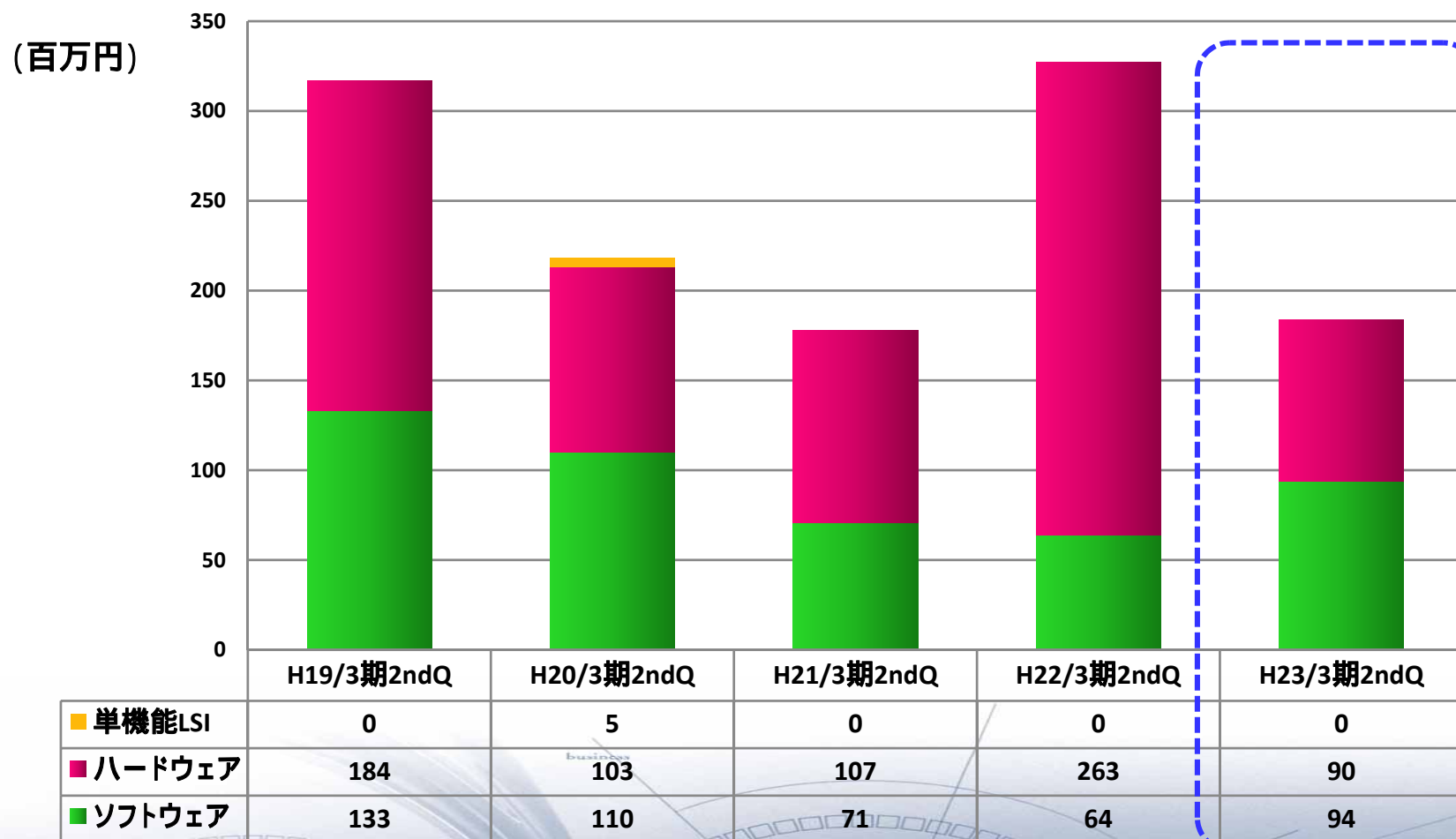
マイナス面

- ◆ハードウェア部門において、失注や顧客の開発計画の見直しが生じ、イニシャル・ライセンスの売上計画値をショート
- ◆ランニング・ロイヤルティも顧客の生産遅延により売上計画値をショート

3-1 売上の内訳(事業区分別)

◆ソフトウェアは前年同期間比5割増…AAC-LC/MP3試作、ワンセグ向けSWパッケージなど

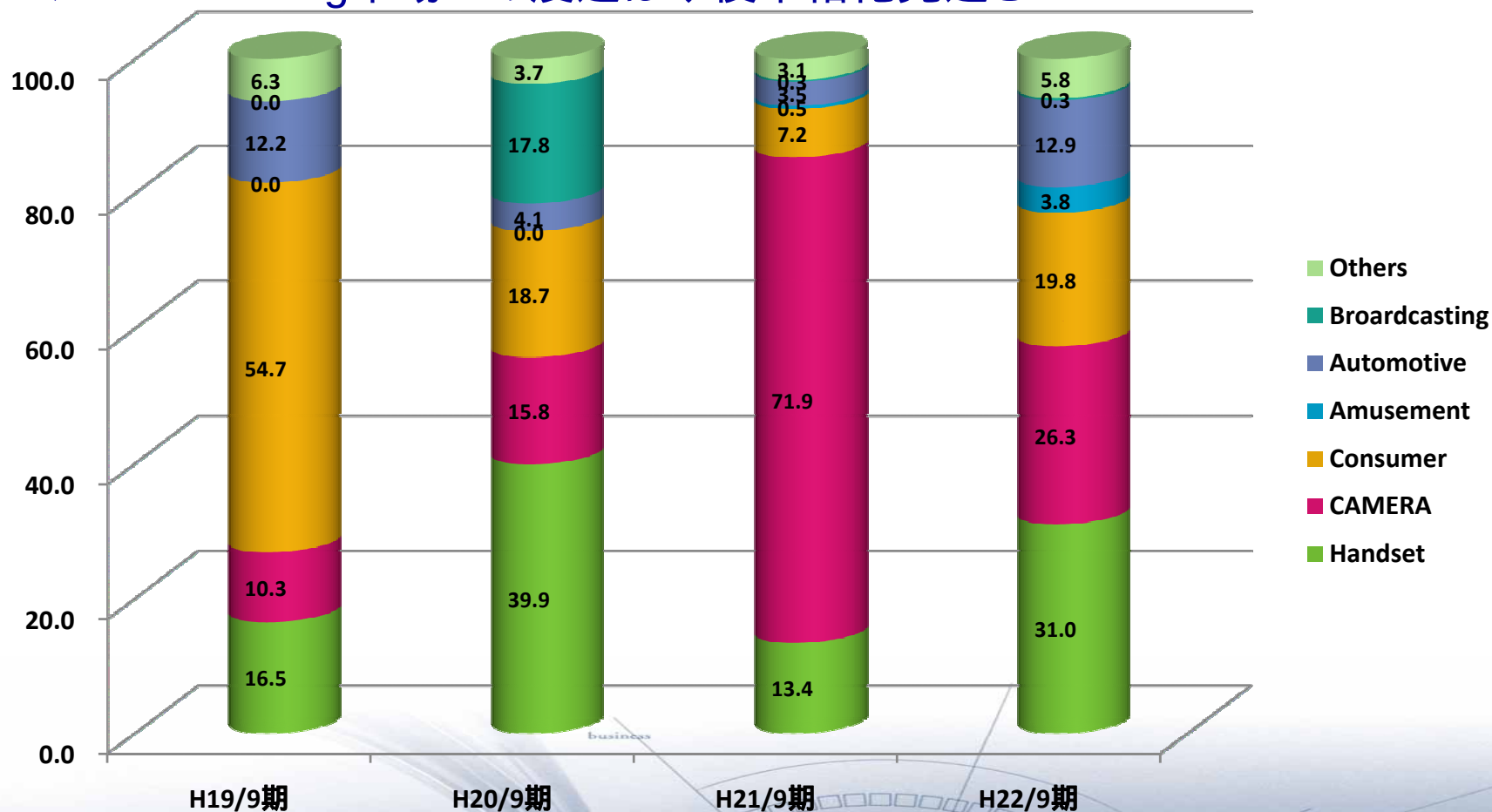
◆ハードウェアは前年同期間比6割減…大型案件なく、振るわず



3-2 売上の内訳(対象市場別)

◆絶対額は低水準ながら、バランスの良い対象市場内訳となった

◆Broadcasting市場への浸透は今後本格化見込む



4-1 通期業績見通し

(単位:百万円)

	通期予想	増減	増減率	前期実績
売上高	780	+247	+46.2%	533
経常利益	200	+197	-	397
当期純利益	204	+194	-	398

ソフトウェアライセンス = H.264、AAC-LC、エコキャンなど見込む

ハードウェアライセンス = H.264、JPEGなどで大型案件見込む

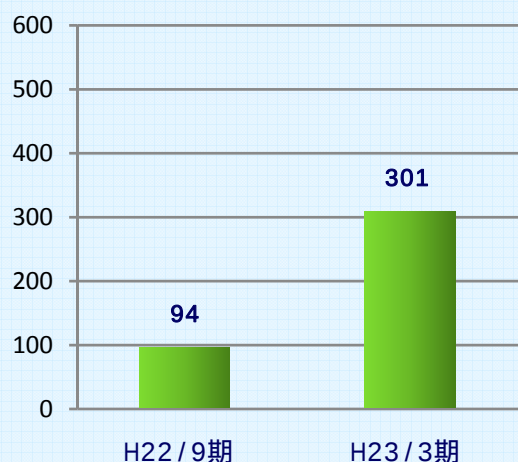
応用システム開発 = 各種ソリューション関連の案件獲得見込む

単機能LSI = 超解像スケーラLSI、H.264LSIの販売に注力

4-2 主な増減要因

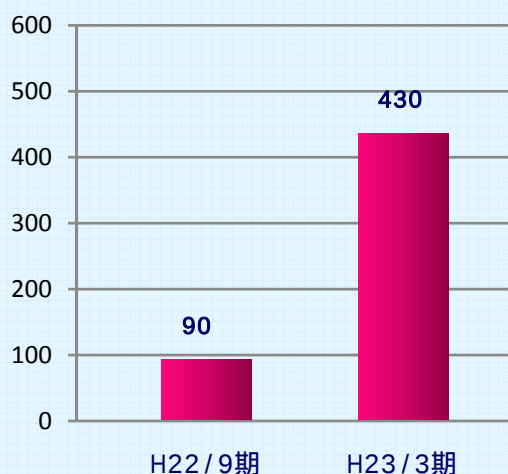
< 売上高 > (単位：百万円、H23/3期は計画値)

ソフトウェア事業



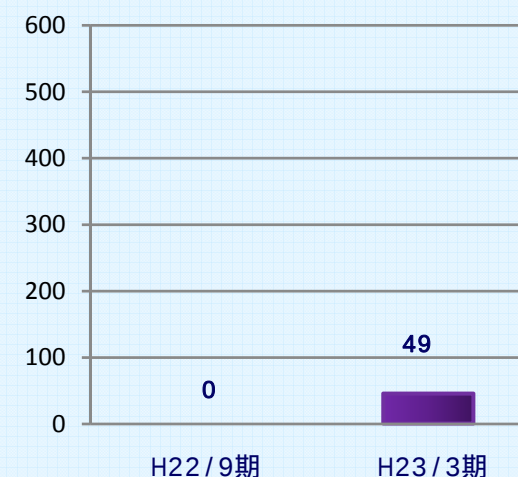
- ・ **ワンセグ**関連で底堅い需要を見込む (EMMA2TS向けになど)
- ・ **ゲーム**関連、**車載**関連、**スマートフォン**関連もターゲットに

ハードウェア事業



- ・ **HD対応**のニーズが黎明期から徐々に実需へと移行してきている
- ・ **デジカメ**向けなどを中心に販売に注力

単機能LSI事業



- ・ デモボードによる性能実演で、監視カメラ、デジタル・サイネージ向けなどに**H.264LSI**の顧客獲得を目指す

4-3 H23年3月期における課題と進捗

1. 販売力・営業予算管理の強化

- ・営業ツール、デモシステムの整備(訴求力向上)
- ・売上数値確保への意識付け

2. 既存技術の見直しと新規開発

- ・H.264 Enc/Dec HWのゲートサイズを大幅に縮小
- ・H.264 SVC他を新たに開発

3. 応用システム事業・単機能LSI/FPGA事業の本格的立ち上げ

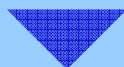
- ・H.264LSIはデモボード開発が大幅遅延
- ・FPGAは第一号顧客との交渉進む

4. 事業統合によるシナジー効果の早期実現

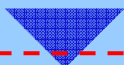
- ・SW分野(音声/音響)で顧客獲得進む
- ・HW分野はFPGA/ボードビジネスでシナジー効果発現を目指す

5-1 Next 2011

平成21年3月期



平成22年3月期



平成23年3月期

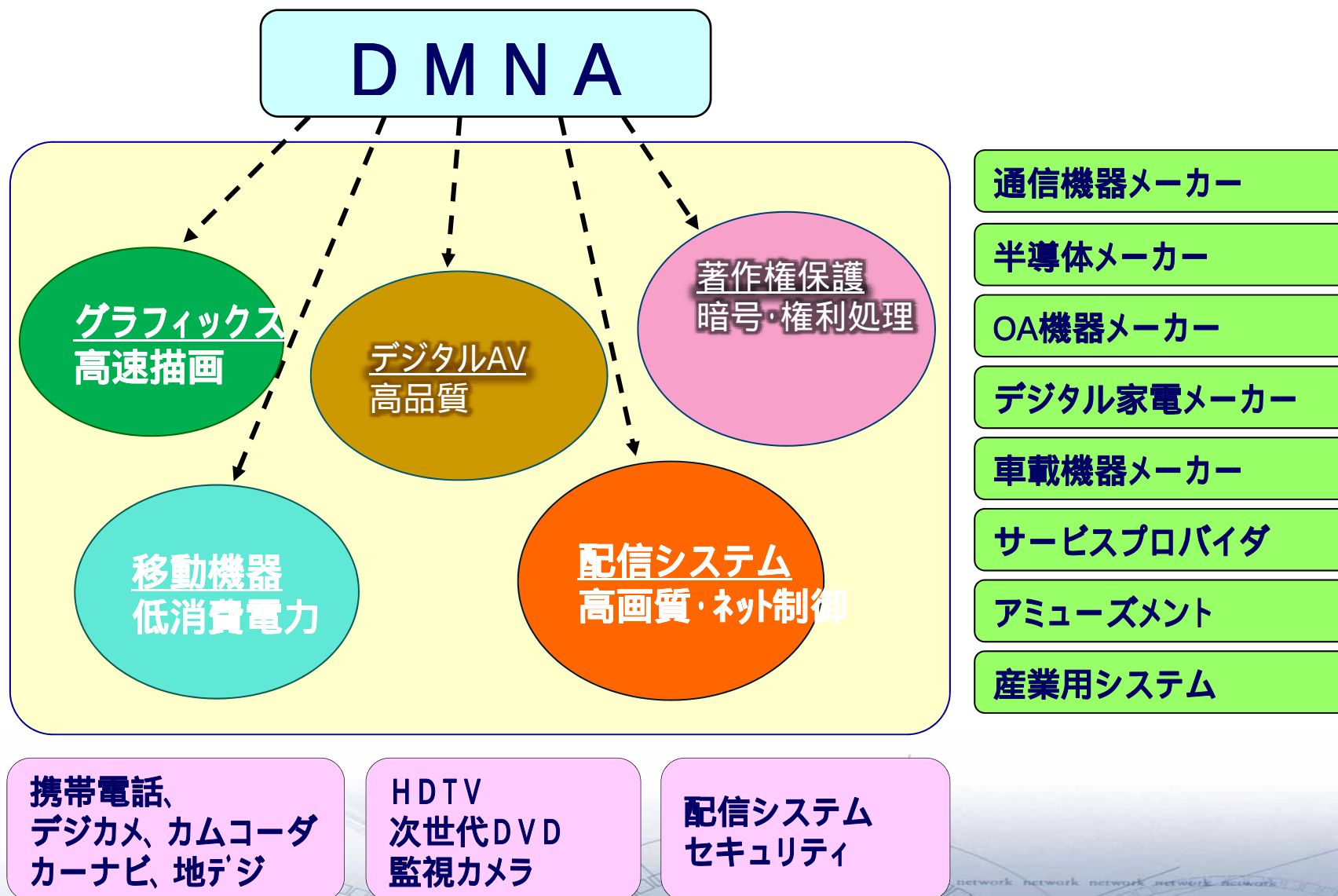
今期は中期3ヶ年計画の最終年

事業を2本柱に再構成し、顧客
ニーズに応用的・総合的に対応
するとともに、提案型ビジネス
を展開できる体制を確立

IP事業

ソリューション事業

5-2 ビジネス展開



5-3 製品形態

ソフトウェアIP / システム提案



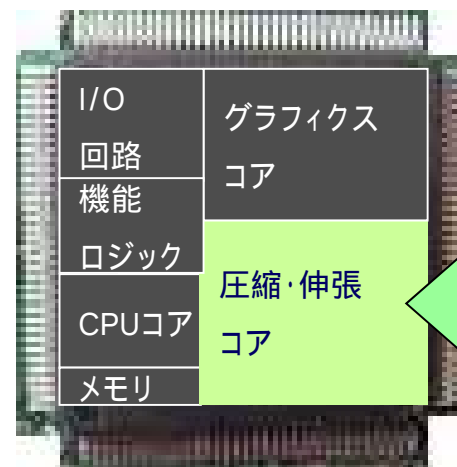
マイクロプロセッサ
 ・ARM7/9/11/Cortex
 ・MIPS
 ・Marvell PXA (Intel Xscale)
 ・TI OMAP / DM
 ・Freescale i.MX
 ・Renesas SH/Mobile
 ・Fujitsu FRV
 ・NECEL MP201, MP211
 ・NECEL EMMA, V850
 ・Toshiba Mep, TX49, X99
 ・IBM Power PC
 ・Magnum ZSP
 ・ADI Black fin
 ・Pentium / Core2duo
 ・Others



実行ファイル

ソフトウェア製品
 音響: MP3, AAC
 動画: H.264, MPEG2/4
 静止画: JPEG等

ハードウェアIP / チップ



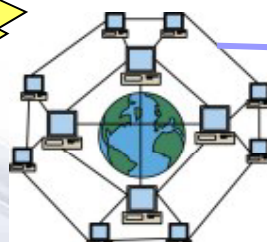
SoC / FPGA

半導体回路データ

ハードウェア製品
 動画: H.264
 MPEG2/4
 静止画: JPEG等

応用システム

インターネット網



サービス

・配信システム
 ・WiFi対応

単機能LSI

半導体チップ



アルゴリズムの分野で 世界のスタンダードになる！

ご清聴ありがとうございました。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。

本資料および説明会内容についてのお問い合わせ先

株式会社テクノマセマティカル 経営企画部

TEL: 03-5798-3636 E-mail: ir@tmath.co.jp